

妊娠期からの親子・家族の愛着形成と 虐待予防のための家庭訪問活動



報告書

2024 年度



目次

理事長あいさつ	1
1. 2024年度の活動概要	2
1) 家庭訪問事業	
2) 家庭訪問員養成事業	
3) スキルアップ研修会	
4) 地域連携に向けての交流会	
5) NHK 歳末たすけあい年末年始支援活動	
2. 活動内容	4
1) 寄り添いを必要とする親子への家庭訪問による支援	
(1) 実施内容	
(2) 実施結果	
2) 家庭訪問員養成講座	
(1) 実施内容	
(2) 実施結果	
3) スキルアップ研修会	
(1) 実施内容	
(2) 実施結果	
4) 地域連携に向けての交流会	
(1) 実施内容	
(2) 実施結果	
5) NHK 歳末たすけあい年末年始支援	
(1) 実施内容	
(2) 実施結果	
3. 今後の展望	20
参考資料	21
寄附を頂いた皆様	28

理事長あいさつ

HEALTHY FAMILY はままつ（以下、HFH）活動を始めて13年目（NPO 法人7年目）になります。本活動の理念である、親子の愛着が形成されやすい妊娠期、出産直後からの家庭訪問を行い、親子・家族の長所に焦点を当てた支援を大切に、親子・家族の愛着を深め、親が自立し、地域で安心して子育てができる支援を行っています。

2024年1月1日に石川県能登地方を震源としたマグニチュード7.6の「令和6年能登半島地震」、9月21日から23日かけて石川県能登半島で発生した豪雨「能登豪雨」、2025年3月岩手県大船渡市の大規模林野火災と災害が起きています。

災害時に被災を受けながらも地元住民や被災地で支援活動を応援している方々の懸命な働きで、復興に向けて動きつつあります、しかし、今後の生活の目途が立たないまま避難所で生活している方々の中に、災害弱者である妊婦、産婦、子ども、子育て中の親子、老人、障がい者などの方々が、どのような支援を受けて生活しているのだろうかと考えてしまいます。

そこで、2024年度は、地震大国である日本は、いつどこで被災するかわからないことから、過去の災害からの学びを生かし、「子育て中の家族の災害への備えと浜松市の母子防災対策」の研修会を開き、災害への予防対策を考えてきました。

さらに、こども家庭庁が発足して2年目となりましたので、「こどもまんなか社会の実現に向けて」をテーマに研修会を開き、こども家庭センターとHFHとの連携を可視化した。次年度は、こども家庭センターとHFHとの連携を具現化して、HFHの訪問ケースを合同ケース会議に上程し、対象家族がこどもまんなか社会に繋がる活動をしていきたいと考えています。

日本の社会環境の変化として、教育格差、経済格差、雇用格差、物価高などから生じている、生活困窮者、子どもの貧困、自殺、DV、子ども虐待等が増加し、地域連携のもとで、こどもアドボカシー支援を必要としています。HFHでは「令和6年度NHK歳末たすけあい助成」を受けて、経済的問題をもつ家庭訪問対象者に、育児や日常生活に必要な物資を提供するなど、子育て支援をしている生活困窮家庭の子どもたちにクリスマスプレゼントまたはお年玉としての絵本、おもちゃ、衣類などの物資を届け、対象者のニーズに寄り添い、つかの間の喜びではありますが、対象者から大変喜ばれています。次年度も継続して行いたいと思っています。

HFHの活動として、常に前進、社会的役割と責任を活動に繋げ、地域の人々から愛される活動団体として成長していきたいと考えています。報告書をまとめるに当たり、多くの方々のご理解とご協力、ご支援を賜り、このような成果が得られましたことに感謝申し上げます。

稚拙な報告書ではありますが、NPO 法人 HEALTHY FAMILY はままつのメンバーが活動理念に基づき一丸となって、日々邁進してまいります。皆様にご拝読頂き、HFHの活動をご理解の上、一緒に活動して頂ける方を募っております。皆様の温かいご理解に支えられて、家庭訪問を必要としている親子・家族に寄り添い、自立した親子・家族が増えていくことを祈願して御挨拶とさせていただきます。



NPO 法人 HEALTHY FAMILY はままつ
理事長 久保田君枝

1. 2024 年度の活動概要

1) 家庭訪問事業

2023 年度からの継続事例や地区担当の保健師や地域の産婦人科医院の紹介事例、支援アクセスカードの QR コードからの事例、困難を抱える女性の見守り支援をしている団体からの紹介事例などに家庭訪問による支援を行った。母親の心の不安定や育てにくさのある子どもの子育てに育児不安を抱える事例が多くみられた。

事例検討会は、毎月開催した。

<家庭訪問ケース>

2024 年度：26 ケース

2) 家庭訪問員養成事業

講座内容の重なりや全体のバランスを考慮して従来の 10 講座から 8 講座へ構成を変更した。自分のスキルアップを目的としている参加者が多く、HFH の家庭訪問員に 1 人が登録した。

<受講者数>

2024 年度 全講座受講修了者：3 人、部分受講者：1 人

3) スキルアップ研修会

家庭訪問員が質の高いサービスの提供をするために、講師を招いての研修会を実施している。今年度は 2 回実施した。

1. テーマ「子育て中の家族の災害への備えと浜松市の母子防災対策を学ぶ」

内 容：聖隷三方原病院 C2 病棟 秋葉志保課長による講義

「親子の災害への備えと対応」

講義から支援にどのようにつなげるかを意見交換

2. テーマ「こどもまんなか社会の実現に向けて」

内 容：聖隷クリストファー大学看護学部公衆衛生看護学三輪真知子先生による講義

「こども家庭センターの現状と課題」

こども家庭センターと HFH との連携に向けて意見交換

4) 地域連携に向けての交流会

質の高い子育て支援をするためには、保健・医療・福祉・教育が連携していくことが重要である。2019 年度からネットワークづくりを目指して、交流会をスタートさせ、社会福祉関係者や保健医療関係者等との交流会を行ってきた。今年度は、困難を抱える女性の見守り支援をしている団体と浜松市のこども家庭センターの統括支援員・保健師との交流会を開催した。

第 10 回地域連携に向けての交流会

テーマ：生きることに困難を抱える女性の現状から HFH との連携を考える

内 容：みんなのあんしんできる場所「のあん」野末鈴菜 代表 による講義

「“のあん”の活動の現状」
質疑応答

第11回地域連携に向けての交流会

テーマ：こども家庭センターと地域との連携について考える

内容：浜松市中央福祉事業所児童家庭課保健師・統括支援員 鈴木千明氏による講義

「浜松市中央福祉事業所の役割と地域活動への期待」

質疑応答

5) NHK 歳末たすけあい年末年始支援活動

様々な要因で孤立しがちな社会的弱者に対して、NHK 歳末助け合いに寄せられた多くの寄付者からの温かい思いやりを届け、新しい年を迎えるための支援をする事業「NHK 歳末たすけあい年末年始支援活動」に今年度も採択され（3回目）、生活や子育てに困難を抱える家庭の子どもたちにクリスマスプレゼントを届けた。

実施期間：2024年12月～2025年1月

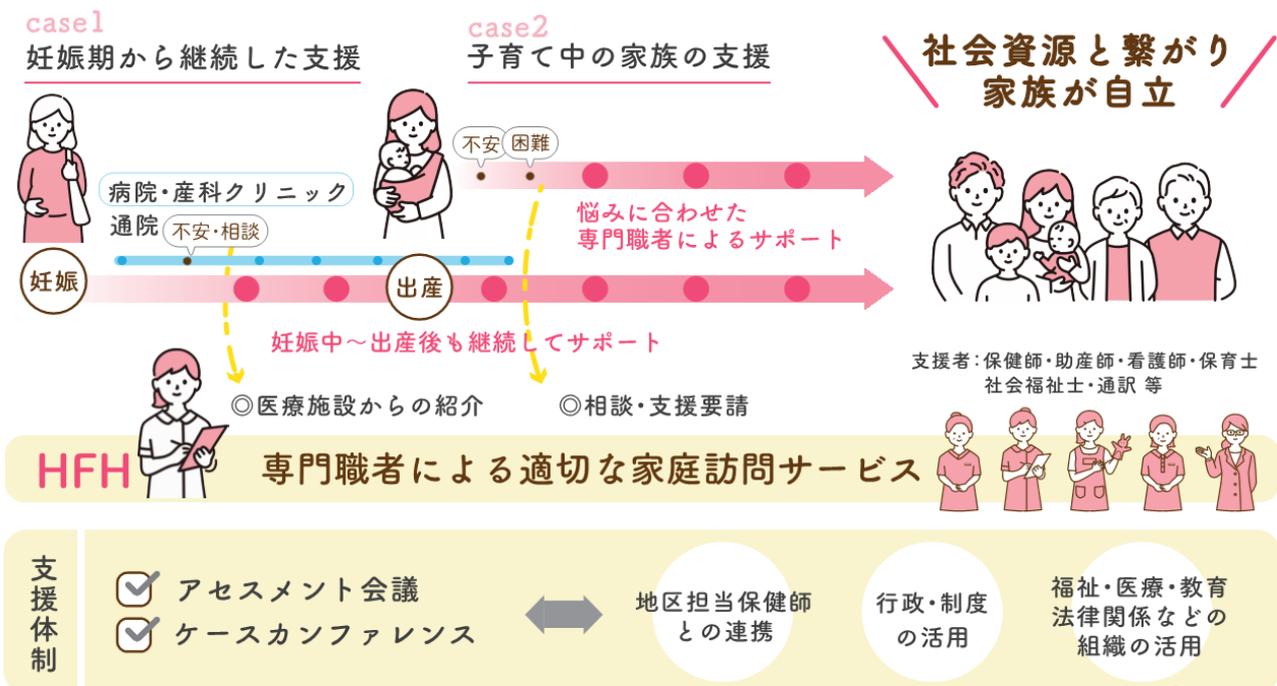
支援件数：13家庭の19人の子どもにプレゼントを届けた。

2. 活動内容

1) 寄り添いを必要とする親子への家庭訪問による支援

(1) 実施内容

<HFH 活動概要図>



家庭訪問の対象は、病院などから紹介を受けて、スクリーニング項目に基づいてアセスメント会議で決定し、対象者の同意が得られたら「同意書」を交わして、妊娠期から産後 6 か月までの地域とのつながりができるまでを一区切りとして家庭訪問による支援を行ってきた。家族のもつニーズの把握のための「両親の背景調査」を行い、家族がもつ長所を生かした支援計画をたて、親子の愛着形成を主軸として支援している。育てにくさのある子どもの対応に苦慮している家族も多く、支援は幼稚園や保育所に入園するまで継続が必要なケースが多くなっている。

活動を紹介するリーフレットと QR コードから支援要請ができる名刺大カードを浜松市内の行政機関の窓口や子育て広場、小児科や産婦人科医院、保育施設などに配布した。9 件のアクセスがあり、4 件が家庭訪問支援につながり、親として子育てに前向きに取り組むことができるように支援した。

家庭訪問は 1 時間を目安として、子どもの身体発育状況や育児の様子、家族の思いなどを確認した。子育てや家族の状況が不安定な時は頻回に訪問し、落ち着いた状況の時は月 1 回程度の訪問で様子を確認し、子どもの成長・発達に応じた関わりや今後の生活について共に考え見守った。

<2024 年度家庭訪問実施ケース>

ケースNO	年代	訪問対象とした要因	支援の状況
1	30代	育児不安・メンタルの既往	継続
2	30代	メンタルの既往・子どもに発達支援が必要	継続
3	30代	成育歴・育児不安	継続
4	30代	メンタル不安定	継続
5	20代	支援者がいない、ADHD、夫のモラハラ	継続
6	30代	マルトリートメント、経済的問題	継続
7	不詳	育児不安	終了
8	20代	外国籍、望まない妊娠、シングル	継続
9	40代	身体障害、育児不安	継続
10	30代	身体不調、育児不安	終了
11	不詳	育児不安	終了
12	不詳	被虐待体験、メンタル不安定	終了
13	10代	学生、育児支援者がいない	継続
14	30代	不安行動	継続
15	30代	育児不安	継続
16	20代	メンタル不安定、支援者がいない	継続
17	30代	経済問題・シングル・支援者がいない	終了
18	30代	経済問題・支援者がいない	終了
19	30代	シングル、外国籍、経済問題	終了
20	40代	DV・脳卒中経度後遺症	終了
21	30代	精神疾患、生活支援必要	終了
22	20代	若年シングル	終了
23	30代	離婚調停中、母精神不安定	終了
24	20代	シングル・経済的不安定・生活の不安	終了
25	40代	支援者がいない、育児不安	継続
26	30代	育児の悩み	継続



<ケースカンファレンス会議の開催>

- ・会 場：聖隷クリストファー大学 会議室
- ・内 容：月に1回家庭訪問員が集まって各々の支援状況を報告し、支援の方向性やサポート内容等を検討して次の訪問につなげた。

・開催日・参加者

回	年月日	参加者
第1回	2024年4月5日	訪問員6名、事務局1名
第2回	2024年5月10日	訪問員9名、事務局1名
第3回	2024年6月7日	訪問員9名、事務局1名
第4回	2024年7月5日	訪問員6名、事務局1名
第5回	2024年8月2日	訪問員5名
第6回	2024年10月4日	訪問員7名
第7回	2024年11月8日	訪問員9名
第8回	2024年12月6日	訪問員8名
第9回	2025年2月7日	訪問員7名
第10回	2025年3月7日	訪問員6名

(2) 実施結果

26 ケースに対して支援を行ない、12 ケースが支援終了となった。行政機関対応になったり、地域の見守り団体対応になったり、一時的な電話相談で終了したケースである。14 ケースは2025年度も継続して支援していく。



(ケースカンファレンス会議の風景)

2) 家庭訪問員養成講座

(1) 実施内容

養成講座をスタートさせた当初からの軸である、親と子が愛着の絆を育んでいくことができるように、HFHの理念と活動目的・家庭訪問スキルなど8講座を開催した。

- ・会 場：子ども支援センターはままつ（浜松市中区泉3-1-38石川ビル1階）
- ・対 象：保健師、看護師、助産師、保育士、教育関係者、児童民生委員、行政職員、子育て支援者、バイリンガルの方等
- ・参加費：1講座1,000円
- ・後 援：浜松市

第1回テーマ：「NPO法人HEALTHY FAMILY はままつの家庭訪問活動の方針と実際」

- ・日 時：2024年9月21日(土)13:00~14:30
- ・講 師：久保田君枝(聖隷クリストファー大学助産学専攻科教授)
- ・参加者：2人

HEALTHY FAMILY はままつ（以下、HFH）の活動理念、目的はヘルシーファミリーアメリカ（以下、HFA）の活動理念を参考に、先進的な母子・家族支援の取り組みについて説明した。アメリカ研修で学んだ、家庭訪問時に訪問者が心がけていることについて紹介した。それは、訪問者は親の育児行動、愛着行動の良い点を褒め、認め、親の肯定的な育児を促進させ、親子・家族の愛着形成を促し、親の自立を促す支援を行っていた。その成果として、子ども虐待が減少し、子どもが健全に養育され、親子・家族の絆を深め、親の自立に繋げていた。



そこで、日本における虐待予防に、HFHは、浜松方式による家庭訪問活動を通して、ローリスクの親子が自立できる支援の現状を説明し、家庭訪問の事例紹介を通して、家庭訪問の意義などについて説明した。

こども家庭庁の発足の経緯と役割について説明した。

さらに、HFHの会員の育成のために、研修やケースカンファレンスなどを行い、訪問員の質の担保のために行っていることを説明した、さらに、家庭訪問員の養成講座を通して会員の募集や家庭訪問員を募り、一緒に活動しましょうと働きかけた。

第2回テーマ：「家族のニーズの把握と支援計画の立て方」

- ・日 時：2024年9月21日(土)14:45~16:25
- ・講 師：行田智子(群馬県立県民健康科学大学看護学部教授)
- ・参加者：3人

HFAの家庭訪問事業で行われているニーズの把握方法として、両親調査(ケンプ・アセスメント)について説明した。具体的には両親調査時の注意点、両親調査10項目の質問例、両親調査の報告書の記入と評価、評価に基づく家族の強みと弱み(課題)の査定の仕事

方の説明をした。演習では、親・支援者・観察者の役割を決めて質問例を参考にして話を聞き気づきを共有した。



第3回テーマ：「成長発達と生活づくり」

第4回テーマ：「子どもと心を通わせるふれあい遊び」

- ・日時：2024年10月5日（土）13:00～14:30
2024年10月5日（土）14:45～16:15
- ・講師：高橋由美子(元岐阜聖徳大学看護学部看護学科講師)
- ・参加者：3人

ライフコースにおける乳幼児期の重要性を、理論を交えながら確認し、子どもの成長・発達の概要や子どもの健康な成長・発達の基盤となる予防接種、安全、日常生活の注意点等を説明した。現代社会の特徴を踏まえて子どもの育ちや家族の理解を深めた。また、月齢ごとの特徴をふまえて支援のポイントを確認し、親子の愛着を促すあそびを紹介した。実際に乳児人形を用いて、子守歌や絵本読み、ふれあい遊びの演習をした。身近な素材を使って、参加者一人ひとりが手作りのおもちゃを作成し、共有した。現役保育士の受講生から色々なアイデアが紹介された。



第5回テーマ：「地域社会の資源をつなぐ」

- ・日時：2024年10月19日（土）13:00～14:30
- ・講師：木村里香(保健師)
- ・参加者：2人

テーマについて、① 自分自身も地域資源の一人であることを認識し、② 地域資源を知り、活用することにより、③ 訪問内容を更に深める、を柱に話をした。

浜松市の母子保健事業の取り組み・資源や「はますくノート」をもとに、妊娠・出産から乳幼児に至るまでのサービスについて話をした。サービス・資源を知った上で、訪問ケースを通してどんな社会資源を使えるか事例検討を行った。事例検討では、活発な意見交換が行われた。



第6回テーマ：「訪問の基本と実際、ロールプレイ、よくある質問と支援の内容」

- ・日 時：2024年10月19日（土）14:45～16:15
- ・講 師：宇田公美子（ルツ助産院院長）
- ・参加者：2人

家庭訪問を行うための手順や注意事項を説明してから、実演によって実際の訪問の様子をイメージしやすいようにした。その後、対象者の設定をしてロールプレイを行い、保護者との会話から振り返りをした。訪問員としての言葉かけや表情の変化をどのように受け止めたか、意識して行えたのかを考えることができた。また、保護者役をした人からのフィードバックもあり、自分の関わり方で相手の気持ちが変わることも体験できた様子であった。



第7・8回テーマ：「実践を支える5つの戦略～聞き方の戦略・問題解決の方法～」

- ・日 時：2024年11月16日（土）13:00～14:30、14:45～16:15
- ・講 師：坂鏡子（NPO 法人子育て支援を考える会 TOKOTOKO 理事長）
- ・参加者：2人

家庭訪問の実践を支える5つの戦略として、①ストレスを理解し寄り添う、②肯定的な事柄を強調する、③一緒に探索し思いをめぐらす、④一般化する（正常化する）、⑤問題の検討を挙げ、現実場面をイメージしながら演習した。肯定的な考え方を強化する3段階と聞き方の戦略を踏まえて、また問題の検討の3段階を確認して問題解決の方法について演習した。



(2) 実施結果

1. 講座受講者：20人（延べ人数）

全講座受講修了者：3人、部分受講者：1人

2. 家庭訪問員の養成講座のアンケート結果

問1 講座の内容全般について（4択）

内容	回答者
1) とても満足	87.5 (%)
2) 満足	12.5 (%)
3) やや不満足	0 (%)
4) 不満足	0 (%)

問2 どんな点が良かったか(複数回答可)

内容	回答者
1) 役立つ情報が得られた	94 (%)
2) 日頃の生活や活動に役立った	63 (%)
3) スキルアップにつながった	75 (%)
4) 他の参加者との交流・情報交換が図られた	50 (%)

問3 その他の良かった点の内容

第2回	・自分の苦手な傾向がわかった。
第4回	・実際に読みきかせやおもちゃを作ったこと。
第6回	・ロールプレイをしてみて実際に訪問するイメージがわいた。
第7回 第8回	・演習をすることによって考えを深められた。

問4 どんな点が良くなかったか(複数回答可)

該当なし

問5 意見

第1回	・質問にお答えいただき嬉しかったです。
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークが楽しかった。 ・難しいな、大変そうと感じましたが、対象を思い込みなく公平な目で見るとい う視点はとても大切だと感じました。 ・ドキドキしながら演習をやりました。とても難しかったです。自分の良さや相 手の良さを知る、見つけることができ、学んでよかったと思いました。
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問員の方の大変さや工夫がよく分かりました。家庭の過ごし方が変わってき ていて保育園でも悩みです。 ・信頼のおける人が自らの背後に1人以上いると良い、というところがそうだ なと思いました。その一人がいることでがんばれる自分がいます。私もそんな 存在になれるよう学んでいきたいと思いました。
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問員の方がいろいろ工夫をしてそれぞれの家庭にうかがっているのだと分 かりました。遊びの道具作りでは何も考えていないところから作っていくの は難しかったです。 ・赤ちゃんのおもちゃを与えることについて気づきがありました。これまで養育 支援訪問の時には、お母さんはおもちゃを作るのは大変だろうと思い折り紙 で作ったおもちゃを持参しましたが、お母さんの作る過程も支援になる(お母 さんとしての成長、子を想いながらの作業)のだと思いました。母親自らが工 夫したり、それをさらに発展させていくことができるような支援になった方 が良いと感じました。

	<ul style="list-style-type: none"> • 手作りおもちゃは喜ぶ顔が見たくて作ろうとするところがとてもあたたかく感じます。作っているうちにアイデアも浮かんできてとても楽しかったです。訪問先で楽しんでもらえたらうれしいです。あっという間に出来るとやってみようかなと思いますよね。
第5回	<ul style="list-style-type: none"> • 子育ての主役はお母さんということを念頭にサポートができれば良いなと思いました。 • 保健師さんや家庭訪問員さんの活動の内容がとてもヘビーなので”すごい”と感じています。家庭の問題へ介入しなくてはいけない場合、母親とのコミュニケーションがなければ成り立たないということも分かりました。
第6回	<ul style="list-style-type: none"> • デモンストレーションをすることによって雰囲気をつかむことができました。子育ては大変だけれど縁を大切に、人とつながって1人でがんばらず育児ができるといいなあ、と思いました。そういうサポートができることがちょっと嬉しいなと思いました。 • 講師の先生方と一緒に話をし、参加者のやっているロールプレイを見ることで学びがあった。いろいろな情報や知識が必要な仕事だと感じた。
第7回 第8回	<ul style="list-style-type: none"> • 戦略があるということ、これらがプログラムされているということ、常に勉強です。とても勉強になりました。



3) 研修会

<第1回>

近年、地震や豪雨、土砂災害などが全国で発生し、避難生活を余儀なくされたり生活の不便が強られる状況が頻発している。南海トラフによる大震災への備えが増々重要となっており、特に乳幼児を抱える家族の準備は行政対応も不十分な状況がある。そこで、地域災害拠点病院で災害時の対応を担当している医療従事者を講師に迎えて研修会を行った。



(1) 実施内容

- ・日 時：2024年7月26日（金）18:30～20:30
- ・テーマ：「子育て中の家族の災害への備えと浜松市の母子防災対策を学ぶ」
- ・講 師：聖隷三方原病院 C2 病棟 秋葉志保課長
- ・会 場：聖隷クリストファー大学
- ・内 容：講義「母子・家族に対する災害時の対応と備えについて」
質疑応答、意見交換

南海トラフ地震で大規模災害が危惧されている。DMAT（災害派遣医療チーム）や EMIS（広域災害救急医療情報システム）の静岡県の実現を学び、災害サイクルの中での医療・看護の役割を具体的に考えた。浜松市の防災・災害情報へのアクセスの仕方を支援者に届けることを確認した。

(2) 実施結果

1. 参加者：9人（HFH 会員、助産師会）
2. アンケート結果

問1 講義は有意義だったか
とても有意義 9人

<理由>

- ・災害時の母子の対応と備えについて、普段から考えていなかったもので、研修会で多くのことを学ばせていただきました。今後の業務でも自分ができることを妊産婦さんに伝えていきたいと思っています。
- ・災害拠点病院がどの地域にあるのかまでを考えておく必要があると思いました。また、自助の重要性を感じました。
- ・子育て支援を仕事としているので、そこで災害ノートの活用や災害時の準備の話をしていこうと思いました。ママたちと皆でアプリを取りながら活用できるようにしていきたいです。
- ・社会福祉士ということもあり、医療については不明なところが多かったので大変勉強になりました。シングルペアレント支援を行っており、母子で災害に対応するのがとても不安という方が多くいるので、今日の研修を生かして伝えてみようと思いました。
- ・災害時の対応等を頭の中で整理することができた。
- ・地震がくるくると言いつつ社会的にどのような体制、浜松市の体制も知ることができ

た。特に避難先での生活について支援が聞けて良かった。

- ・災害に備えなければならぬと理解はしていても中々行動できていなかったりしているで考える機会になってよかった。災害と大きい枠で考えるとどう伝えたらいいか難しいが、ポイントを今日知れてこれから伝えていこうと思った。
- ・妊婦や家族への指導に役立つ内容でした。
- ・現実の情報も入り、国→県→市の役割の流れがわかりやすかった。浜松市が母子への対応の備蓄などをどこにどのくらいしているのかも知りたいと思った。

<第2回>

こども家庭庁が発足し、こども家庭センターが開設されて、全ての妊産婦・親子を対象とした総合相談窓口としての機能が期待されている。実際の状況を踏まえて、HFHの活動がどのように連携していけるか考える機会とした。



(1) 実施内容

- ・日 時：2025年3月7日（金）18:30～20:00
- ・テーマ：「こどもまんなか社会の実現に向けて」
- ・講 師：聖隷クリストファー大学看護学部公衆衛生看護学 三輪真知子教授
- ・会 場：聖隷クリストファー大学
- ・内 容：講義「こども家庭センターの現状と課題」
質疑応答、意見交換
国内外の母子保健が発展した背景や現状の情報が提供され、新設されたこども家庭センターの現状や今後の期待などについて意見交換がされた。

(2) 実施結果

1. 参加者：6人（HFH会員、社会福祉学科教員）
2. アンケート結果

問1 講義は有意義だったか

とても有意義5人、有意義1人

<理由>

- ・こども家庭センターの発足の経緯が具体的で理解できた。
- ・こども基本法がある意味を他の法律などと関連させて理解することができた。
- ・HFHの活動を考えるのに良い機会となった。
- ・知らなかったこども家庭センターことを知り、学びとなった。困難な親子がいろいろな方々が協力してケース会議をしていく。よりよい子育てができるといいですね。1組でも多くの親子が幸せになるといいですね。
- ・各法の変遷や「こども家庭センター」の詳細について、まとまった説明を聞くことができ、断片的な理解であった状態から、理解を深めることができた。

問2 質疑応答は有意義だったか（4択）

とても有意義4人、有意義2人

<理由>

- イギリスの組織の紹介があり、視野を広げることができた。
- 世界の母子保健、公衆衛生の背景から様々に詳しく知ることができた。
- 質疑応答を通して、より具体的にイメージすることができた。連携・協働がうまくいき、支援が届かないケースが減ることを期待する。
- 色々な具体的な状況を知り、次回の交流会で浜松市のこども家庭センターとつなげられそうで楽しみになった。

4) 地域連携に向けての交流会

2019 年度から社会福祉活動を実践している専門職者や行政の保健師との交流会を開催し、保健・医療・福祉の活動における互いの立場を知り合うよい機会となり、必要な時に連携できる関係をつくっていくことの必要性を確認してきた。

2024 年度は、若年女性と母子支援をしている民間団体と浜松市行政との交流会を開催して HFH との連携を考えた。

<第 10 回>地域連携に向けての交流会

(1) 実施内容

テーマ：「生きることに困難を抱える女性の現状から HFH との連携を考える」

日 時：2024 年 11 月 8 日（金）18:30～19:30

場 所：聖隷クリストファー大学 1706 会議室

内 容：みんなのあんしんできる場所のあん 代表 野末鈴菜氏による講義

「“のあん” の活動の現状」

質疑応答

社会的養護経験者や若年女性、母子の居場所づくり、定時制高校の構内居場所カフェ事業などの発足の経緯や運営の工夫など具体的な質問が多く出され、支援を必要としている女性の現状を学んだ。

(2) 実施結果

1. 参加者：9 人（HFH 会員）

2. アンケート結果

問 1 講義は有意義だったか

とても有意義 8 人、有意義 1 人

<理由>

- ・「のあん」の活動がよくわかりとても興味を持ちました。高校生へのアプローチはとても重要なことだと思いました。
- ・みんなのあんしんできる場所「のあん」その由来も素敵ですね。子どもたちが頼れる場所は大切ですね。しっかりとした事務所ができるといいですね。助成金いっぱいもらえるといいですね。
- ・具体的な活動内容を教えていただいてわかりやすかった。
- ・今後の連携が期待される。
- ・若年女性の居場所のハードルを下げるために高校に居場所カフェを作るというアイデアで活動の対象者を把握していくことにつながることがわかりました。
- ・これまでの日々の経験の中からの切実な思いを具体的な行動につなげているのが素晴らしいと思いつつ、どうしたらうまくつなげてできるのか教えていただきたいと思います。
- ・福祉の世界にふれることができた。

問 2 話し合いは有意義だったか

とても有意義 8 人、有意義 1 人

<理由>

- HFH の活動とすぐに結びつくことはないのかもしれませんが、女性を対象とする団体なので、今後つながっていくことを期待したいと思います。
- 知恵を出し合えた。
- 話し合いができてよかったです。
- 皆さんの意見が聞けてよかった。
- 私たちも場所が欲しいです。
- 浜松での現状や今の高校生の状況なども聞けてよかったです。一緒に歩み、子どものために、女性のために活動できることを望みます。

<第 11 回>

(1) 実施内容

テーマ：「こども家庭センターと地域との連携について考えよう」

日 時：2025 年 3 月 18 日（火）18:30～20:00

場 所：聖隷クリストファー大学 1602 教室

内 容：浜松市中央福祉事業所児童家庭課 保健師・統括支援員 鈴木千明氏による講義

「浜松市中央福祉事業所の役割と地域活動への期待」

質疑応答・意見交換

HFH の事例への助言を得たり情報交換の課題など行政と HFH との連携について考えた。

(2) 実施結果

1. 参加者：7 人（HFH 会員、大学教員）

2. アンケート結果

問 1 講義は有意義だったか。

とても有意義 5 人

<理由>

- 切れ目のない支援の流れがよくわかった。愛着形成がとても大切であることを再確認でき、私たちの訪問の必要性も再確認できた。
- こども家庭センターと HFH の連携について可視化でき、活動に活かすことが理解できた。
- こども家庭センターの役割、機能についてよくわかった。
- こども家庭センターが開設されたことは知っていても、具体的に分からなかったものでよかったです。

問 2 話し合いは有意義だったか。

とても有意義 5 人

<理由>

- 今後、今まで以上に行政保健師との情報交換ができ、よりよい訪問につなげていきたいと思っています。
- HFH の事例に対する講師からの助言が分かりやすかった。

- 地区担当の保健師さんに連絡して良いことが良くわかりました。
- HFH の活動と市行政との関係、つながりがよくわかった。
- 多忙な行政への連絡はタイミングを考えたり気を遣うことも多かったが、地域支援開発の事業が進められることを聞いて降雨後への期待が持てた。

5) NHK 歳末たすけあい年末年始支援活動

2023 年度に助成を受けて経済的困窮家庭の子どもたちにプレゼントを届けて大変有意義であったため、今年度も申請し助成を得ることができた。

(1) 実施内容

家庭訪問による子育て支援をしている生活困窮家庭と、若年女性や母子支援をしている団体と連携して物資支援が必要な家庭の子どもたちへクリスマスプレゼントとしておもちゃ、衣類、育児用品などを届けた。2024 年の家族の頑張りをほめ、子どもの年齢に応じたアドバイスをを行い、今後の成長を楽しみにして子育てして行けるように支援した。

(2) 実施結果

<プレゼントを贈られた家族の様子・ことば>

- 地域の保健師、産科医院、HFH の支援を頂きながら夫婦で協力して今まで何とかやって来ました。乳腺炎になった時は本当につらかったです。実家が遠くて一人で子育てする時間が多い中、家庭訪問で話を聞いてもらえたのはとても助けられました。プレゼントも頂いてあたたかいパジャマを着せて新しい年を迎えることができました。
- 新しい服や靴をなかなか買ってあげられず、お兄ちゃんには 4 歳なのに 95 のジャンパーを無理やり着せてました。布も薄くて「寒い」と言われていたので、本人に合ったサイズであたたかいジャンパーをありがとうございました。子どもも実際に着て「あったかい」とうれしそうでした。
- 毎月オムツを頂いていて、すぐにオムツがなくなってしまうためプレゼントもオムツをお願いしました。「もう少し、もう少し」とオムツを替える回数を減らしがちですが、濡れたらすぐに替えてあげられます。ありがとうございます。
- アンパンマンお絵描きボードを頂きました。すぐに遊び出して夢中でお絵描きをしていました。なかなか大きなおもちゃを買う余裕がなかったので本当にありがたいです。
- ずっと欲しかったピカチュウのぬいぐるみをプレゼントされてとても嬉しかったです。仕事が忙しく経済的な不安がある中、母子で大喜びでした。
- 冬用のズボンが欲しかったのでお願いしました。とても暖かそうで嬉しかったです。翌日の入園体験に着ていくとのことでした。
- 欲しがっていた色の靴をプレゼントしてもらい「わー、開けていい?!」と飛び跳ねてとても喜んでいました。4 月から小学生なので、この靴を履いてたくさん体を動かして欲しいです。
- その後お気に入り靴を履いていると報告がありました。
子ども達は「ママー見て見てかわいい!」と自慢したり、3 時間くらいずっとマグネットプロ

ックで遊んでいました。みんな大満足で楽しそうに遊んでいるそうです。

- とても大好きなマンガだったので喜んでます。自分の手元にあると、いつでも何度でも読み返せるのでうれしいようです。お正月に楽しみたいです。実は子どもに借りて読んで、ママもハマってしまったとのこと。
- 助けて下さっているという気持ちが嬉しいです。ありがとうございます。
- 生活でよく使うものを頂くことができありがとうございました。
- 嬉しい。冬用で暖かそうでいいな。
- 袋を開けてプレゼントを見た瞬間「うわーすげー」「うわーすごいすごい」と歓声を上げて喜んでいました。大切に使うそうです。
- ままごとセットとミニブランケットを希望され、プレゼントを渡すと「わー」と母子で笑顔があふれ何度もお礼を言われていました。



3. 今後の展望

NPO 法人 HEALTHY FAMILY はままつ（HFH）としての活動が 7 年目を迎えています。少子化・人口減少の社会環境は増々深刻さを増し、こども・子育て政策への期待が求められています。2024 年 4 月から子ども家庭センターが動き始めました。「こどもまんなか社会の実現に向けて」、HFH は、親子・家族が地域の中で安心して子育てができる社会への一助となるよう取り組んでいきたいと考えています。

経験豊富な保健医療福祉の専門職者が集まった HFH は、対象の一人ひとりを尊重して、支援を必要とする人びと・家族から求められるニーズに応えるために、社会変化に敏感に対応しながら、以下の取り組みを実践していきます。

- ① 地域の産婦人科及び小児科医院、総合病院、こども家庭センターとの連携を広げ、妊娠期から子育て期の親子・家族に、家庭訪問を行い、愛着形成を促す支援とともに、親子・家族が自立して、安心して地域で生活できる支援をしていく。
- ② 家庭訪問員の養成と訪問員のスキルアップのための研修会・交流会を行う。
 - ・ 浜松市伴走型相談支援についての研修
 - ・ 木村産科・婦人科の MAMMY1010 産後ケアについての研修会
 - ・ 民生委員との交流会
 - ・ 訪問看護ステーション（母子）との交流会
- ③ HFH に QR コードからアクセスできる「アクセスカード」を、支援を必要としている人の目に留まりやすいところに設置する。
- ④ HFH 活動の紹介や子育てに関する情報発信するためにホームページの充実を図る。
- ⑤ 困窮家族への支援として、「NHK 歳末たすけあい年末年始支援活動」に応募する。

2024年度 静岡県共同募金会 赤い羽根助成事業

2024年度 NPO 法人 HEALTHY FAMILY はままつ 家庭訪問員の養成講座

in
浜松



こども家庭庁が設置され、こども家庭センターの創設のもと切れ目のない包括的な子育て支援が進むことが期待されています。産後ケアの制度も徐々に整ってきました。しかし、孤独感を抱えたり、我が子がかわいいと思いつつも具体的な関わり方がわからず葛藤している親も少なくありません。子育てに悩む親をどのように受け止めサポートしていくとよいのか、支援者も葛藤していると思います。本講座では、ヘルシー・ファミリー・アメリカ(HFA)のプログラムの基本となる考え方を日本の状況に合わせて支援方法を学び、妊娠中や出産直後から定期的な家庭訪問を行う家庭訪問員を養成します。親にそっと寄り添い、親と子の愛着形成を促進する支援方法を習得します。

講座 No	テーマ	講師	開催日	時間
第1回	NPO 法人 HEALTHY FAMILY はままつの家庭訪問活動の方針と実際	久保田君枝	09月21日(土)	13:00~14:30
第2回	家族のニーズの把握と支援計画の立て方	行田 智子	09月21日(土)	14:45~16:15
第3回	子どもの成長発達と生活づくり	高橋由美子	10月05日(土)	13:00~14:30
第4回	子どもと心を通わせるふれあい遊び	高橋由美子	10月05日(土)	14:45~16:15
第5回	地域社会の資源につなぐ	木村 里香	10月19日(土)	13:00~14:30
第6回	訪問の基本と実際 ロールプレイ、よくある質問と支援の内容	宇田公美子	10月19日(土)	14:45~16:15
第7回	実践を支える5つの戦略Ⅰ～聞き方の戦略～	坂 鏡 子	11月16日(土)	13:00~14:30
第8回	実践を支える5つの戦略Ⅱ～問題解決の方法～	坂 鏡 子	11月16日(土)	14:45~16:15

演習を伴う講座もありますが、感染予防対策を十分に行って実施します。

会 場 → 子ども支援センターはままつ（浜松市中央区泉三丁目 1-38 石川ビル 1 階）
 対 象 者 → 看護師、助産師、保健師、保育士、教育関係者、行政職員、児童民生委員、子育て支援者、バイリンガルの方等
 資 料 代 → 全講座 8,000 円（1 講座 1,000 円×参加回数）
 申 込 先 → healthy.family.hamamatsu@gmail.com
 問 合 先 → 053-488-4973（子ども支援センターはままつ内）
 090-4790-7719（久保田君枝）
 後 援 → 浜松市



WEB
申込
QR
コード



養成講座の受講者募集チラシ（表）

◎ 講師紹介

講師	所属
久保田君枝	・聖隷クリストファー大学助産学専攻科教授、本法人理事長・家庭訪問員
行田智子	・群馬県立県民健康科学大学看護学部教授
高橋由美子	・元岐阜聖徳学園大学看護学部専任講師、本法人副理事長・家庭訪問員
宇田公美子	・ルツ助産院、新生児訪問員、本法人理事・家庭訪問員
木村里香	・保健師、子育て支援ボランティア、本法人理事・家庭訪問員
坂鏡子	・NPO 法人子育て支援を考える会 TOKOTOKO 理事長

◎会場のアクセス

- 会場:浜松市中央区泉三丁目 1-38 石川ビル 1階
- 駐車場:浜松市中央区幸 5-7-30(第2駐車場)
駐車台数(9台)に限りがあります。
- バス利用の場合:遠州鉄道バス「幸町」停留所
より徒歩 1分
- カーナビ検索:053-488-4973



===== 申 込 書 =====

■講座へのお申込みは FAX・TEL またはメールでお願いいたします。
Web からの申込みできます。

FAX 053-488-4974 TEL 053-488-4973

メールアドレス healthy.family.hamamatsu@gmail.com



WEB 申込 QR コード

ふりがな								
お名前								
TEL				メール アドレス				
国家資格の有無	あり (資格名: _____) ・ 無							
希望講座	※希望講座に○を付けて下さい。 全講座 ・ 講座 1 2 3 4 5 6 7 8							

※個人情報の利用について、皆様の個人情報は本事業における目的以外で利用しません。

養成講座の受講者募集チラシ (裏)



2024年度静岡県共同募金会赤い羽根助成事業

2024年度 HEALTHY FAMILY はままつ

防災研修会

テーマ

子育て中の家族の災害への備えと
災害時の対応を学ぶ

講師 聖隷三方原病院C2病棟 秋葉志保課長

日時 2024年7月26日（金） 18:30～20:30

会場 聖隷クリストファー大学 1号館6階 1602教室

参加者 HFH会員と親子支援に関わる人

参加費 HFH会員 500円、非会員 1,000円

<スケジュール>

18:30 開会

講義「親子の災害への備えと対応」
秋葉志保 課長

20:00 質疑応答

20:20 まとめ

20:25 閉会・アンケート

<お問い合わせ>

理事長 久保田君枝（聖隷クリストファー大学助産学専攻科）

研究室：053-439-1454 kimie-k@seirei.ac.jp

HFH事務局：053-488-4973 healthy.family.hamamatsu@gmail.com

担当：山城、高橋

<お申込み> HFHホームページ（www.hfh.jp）の申し込みサイトから



2024年度静岡県共同募金会赤い羽根助成事業

2024年度 HEALTHY FAMILY はままつ

2024年 第2回研修会

「こどもまんなか社会の実現に向けて」

聖隷クリストファー大学看護学部
公衆衛生看護学 三輪真知子先生

日時

2025年3月7日
18:30~20:00

会場

聖隷クリストファー大学
1602教室

参加費

HFH会員 500円
非会員 1000円

<スケジュール>

18:30 開会

講義「こども家庭センターの現状と課題」

三輪真知子先生

19:30 子ども家庭センターとHFHとの連携に向けて
意見交換

19:55 まとめ

20:00 閉会・アンケート

<お問い合わせ>

理事長 久保田君枝(聖隷クリストファー大学助産学専攻科)

研究室:053-439-1454 kimie-k@seirei.ac.jp

HFH事務局:053-488-4973 healthy.family.hamamatsu@gmail.com

担当:山城、高橋

<お申込み> HFHホームページ(www.hfh.jp)の申し込みサイトから



qrからの申し込みはこちら



第10回 地域連携に向けての交流会

—生きることに困難を抱える女性の現状から HFHとの連携を考える—

講師：みんなのあんしんできる場所「のあん」
野末鈴菜 代表

日時

11月8日（金）

18:30～19:30

場所

聖隷クリストファー大学 1706会議室

参加者

HFH会員・子育て支援に関わる者

スケジュール

- 1830 開会あいさつ、趣旨説明
講義「“のあん”の活動の現状」 野末鈴菜先生
- 1900 質疑応答
意見交換
- 20 まとめ
- 1930 閉会・アンケート記載

<お問い合わせ>

理事長 久保田君枝（聖隷クリストファー大学助産学専攻科）

研究室：053-439-1454 kimie-k@seirei.ac.jp

HFH事務局：053-488-4973 healthy.family.hamamatsu@gmail.com

担当：山城、高橋



第11回 地域連携に向けての交流会

子ども家庭センターと
地域との連携について考えよう

講師：浜松市中央福祉事業所児童家庭課
保健師・統括支援員 鈴木千明 氏

日時：2025.3.18 (火) 18:30~20:00

場所：聖隷クリストファー大学 1602教室

参加者：HFH会員、子育て支援に関わる人



18:30 開会あいさつ、趣旨説明

講義「浜松市中央福祉事業所の役割と
地域活動への期待」
鈴木千明 先生

19:30 質疑応答
意見交換

50 まとめ

20:00 閉会・アンケート

浜松市の子育て支援の現状を学び、行政と
HFHとの連携について考えましょう



<お問い合わせ>

理事長 久保田君枝 (聖隷クリストファー大学助産学専攻科)

研究室：053-439-1454 kimie-k@seirei.ac.jp

HFH事務局：053-488-4973 healthy.family.hamamatsu@gmail.com

担当：山城、高橋

核家族化や経済不安により、家族や知人を頼れず、孤独を抱えながら育児をする女性は少なくない。悩みを抱える妊産婦に寄り添う浜松市のNPO法人「HEALTHY FAMILY（ヘルシー・ファミリー）」は、毎月1回の定例会では具

10代、ひとり親…悩む妊産婦

体的な事例の報告が相次ぐ。「本人に発達障害の傾向があり、子どもの世話に混乱している場面があった」「配偶者の言葉遣いがきつく、虐待とまで言えないが子どもへ影響が心配だ」。子どもの発達状況に悩む母親、県外出身で親に助けを求められない女性一。妊産婦の支援にあたる関係者は「本当に必要な人に支援が届いていない」と指摘し、次期知事には「子育て世代の現状を把握して、具体的な施策を示してほしい」と訴える。

育児支援 ニーズ捉えて



悩みを抱える妊産婦家庭の訪問事例を報告するHEALTHY FAMILYはままつの会員＝10日、浜松市中央区の聖隷クリストファー大

から活動するボランティア団体。会員は助産師や保健師、看護師ら13人。地域の産婦人科医院などと連携し、妊産婦の家庭訪問事業に取り組み。支援対象者は若年、ひとり親、外国籍のほか、経済的・精神的不安を抱える妊産婦ら。23年度の支援事例数は22件だった。

静岡新聞デジタルに子育て支援に関するその他の質問の回答を公開

政党公認、推薦候補者に聞きました

(届け出順)

若年、ひとり親、経済的・精神的不安など、困難を抱える妊産婦対策に取り組む考えはあるか。

森大介氏（共産公認） 母体の健康を守り、経済的な格差によらず、不安なく健やかに新しい命を育てよう「妊産婦医療費助成制度」を創設する。

鈴木康友氏（立民、国民推薦） 女性に関わる問題は多岐にわたる。県が今年3月に策定した「困難な問題を抱える女性支援基本計画」に基づき、女性相談支援センターや女性自立支援施設の充実を図るとともに、困難を抱える妊産婦の支援については、多角的な視点から、相談体制や支援策の強化を推進していく。

大村慎一氏（自民推薦） 妊産婦支援なくして、安心して子を育てる社会は成り立たない。就業や住居の確保など、生活の基本となる部分への支援について、当事者の声も聞きながら、政策に反映させるよう、プロジェクトチームを立ち上げ、必要な予算対応、さまざまな困難の事情に応じたきめ細やかな対応を行う。



同NPOは助産師や保健師らが家庭訪問員となり、

悩みを抱える妊産婦に寄り添う活動を続けている。10代の妊婦やシングルマザーなど、育児に不安がある女性の相談にのじたり、家庭訪問したりして、親子の愛着形成を目指す。「支援を拒絶されないようにするにはどうしたらよいか」。継続的な関わりを続けるため、女性の性格や子育て方針、夫婦関係など対象者一

人一人の状況を共有し、個人の実情に合わせた支援につなげている。3年前に短大を休学して娘を出産した保育士の女性(21)は産院で同NPOを紹介されて支援を受け、産後の時期を乗り切ってきた。「自分だけで育てられるか不安しかなかった」と出産当時に振り返る。久保田君枝理事長(75)＝聖隷クリス

トファー大助産学専攻科教授IIが定期的に電話で保育士になる夢を応援したり、おむつやお尻ふきを持って訪問したりして自立を後押しした。女性は「ひとり親で学生だから金銭面に不安があった。娘を連れて買い物に行くのも体力的に大変なため、物資をもらって助かった」と感謝する。春から保

育士として働き始め、娘と過ごす時間は減ってしまったが「仕事以外の時間は娘に愛情を注いでいきたい」と育児に前向きになった。久保田理事長は「公的な子育て支援は拡充されているが、本当に困っている人にはなかなか届かない。例えば産後ケアは助成制度があっても貧困層は自己負担を払えない」と指摘。行政に対しては「もっとニーズをよく把握し、安心して子育てができる環境を整備してほしい」と期待する。(生活報道部・伊藤さくら)

孤立の実態「丁寧」に把握を

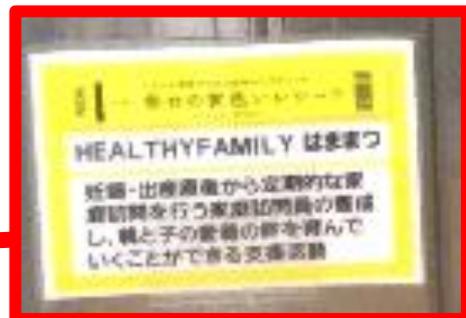
「NPO 法人 HEALTHY FAMILY はままつ」に
ご理解とご協力いただき、心より感謝申し上げます。

<2024 年度 寄附者ご芳名 (2024 年 4 月~2025 年 2 月現在) >

- 個人の支援者の皆様 12 名
- 合計金額は 89,004 円でした。

「イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン」による御協力

- マックスバリュ-浜松和田店 様



親子の強みを大切に



HEALTHY FAMILY はままつ

妊娠期から親子・家族の愛着形成と虐待予防のための家庭訪問活動 報告書

2025年 3月 発行

発行

NPO 法人 HEALTHY FAMILY はままつ

発行者

理事長 久保田 君枝

連絡先

住所 〒433-8124

浜松市中央区泉三丁目 1-38 石川ビル2F

電話 053-488-4973

メール hfhmamatsu@gmail.com

WEB <http://hfh.jp/>

